

加戸鳥獣保護区における 鳥類相と哺乳類相

福井県自然保護センター¹

はじめに

「鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律」の一つの目的である鳥獣の保護繁殖のために、各道府県では鳥獣保護区や休猟区などが設けられている。1993年現在、福井県では鳥獣保護区が39カ所、休猟区が31ヶ所および銃猟禁止区域35カ所が設定されている。鳥獣保護区や休猟区の設定・継続を達成するためには、そこで生息または繁殖している鳥類や哺乳類の種や生息密度について常に把握しておく必要がある。当県では、鳥獣保護行政に資するためにガンカモ科鳥類生息調査、渡り鳥保全調査および自然環境保全基礎調査などが継続されている。これらの既存の調査資料を保護区ごとに整理することは、保護・管理を行なう上で有益であろう(福井県自然保護センター 1994)。そこで、今回は、加戸鳥獣保護区についてまとめ、これからの保全対策について考察してみた。

調査地と方法

加戸鳥獣保護区は、福井県坂井郡三国町加戸(36° 12'N, 136° 11'E)に位置し(図1)、面積9 haの広さである。当保護区は、冬鳥の集団渡来地として指定されている(福井県 1992a)。

ここでは、1978年に環境庁委託第2回自然環境保全基礎調査(福井県 1978)、1981年に自然環境管理計画のための調査(福井県自然環境保全調査研究会 1985)と1979年～1993年に冬期のガンカモ科鳥類調査を行なっていた(福井県 1979, 1980, 1981, 1982a, 1983, 1984, 1985, 1986, 1987, 1988, 1989, 1990, 1991, 1992b, 1993)。第2回自然環境保全基礎調査では聞き取りにより哺乳類を、自然環境管理計画調査では現地調査により鳥類の種を記録していた。ガンカモ科鳥類調査では、1月15日またはその前後日に加戸にある大堤とその周辺で観察された鳥類の種と個体数を記録していた。

記録された鳥類の渡り性については、「福井県の鳥獣」(福井県 1982)に従い、生息環境は、黒田(1982)の分類する林野(森林など)、原野(草原など)、移水帯(溪谷、干潟など)、水帯(水面など)、農耕地(畑地、果樹園など)、居住地(市街など)に従ってまとめた。

1. 〒912-01 福井県大野市南六呂師169-11-2

執筆者：大迫義人

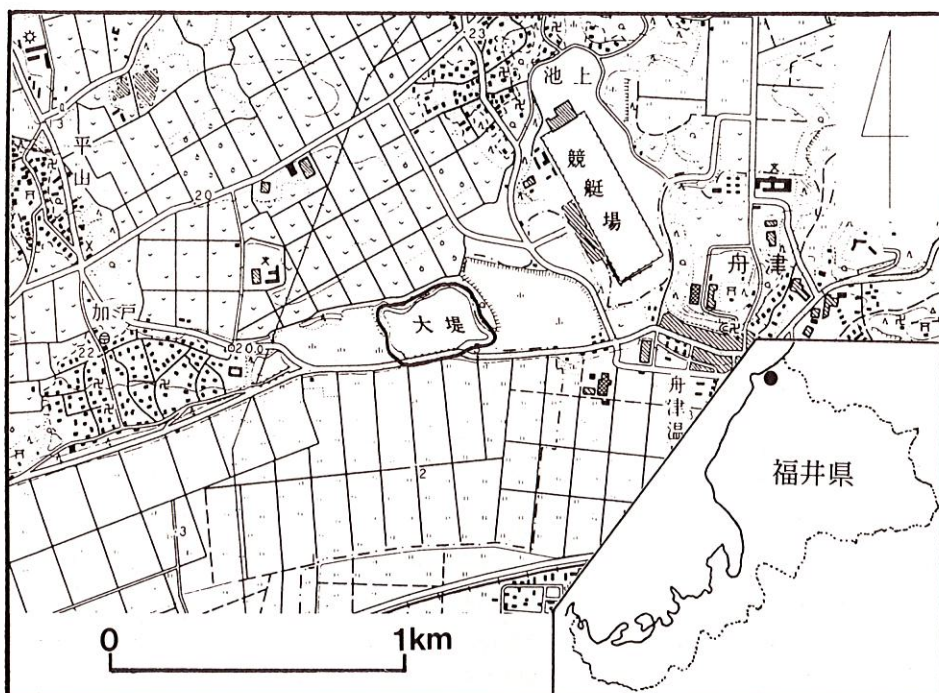


図1. 加戸鳥獣保護区の位置.

Fig. 1. Location of Kato Wildlife Protection Area.

総説と考察

1. 鳥類相と哺乳類相

現在までに記録された鳥類種、哺乳類種とその学名は表1, 2に掲載した.

1979年～1993年までに、計10目18科43種の鳥類が記録されていた(表1). 福井県の鳥類は1982年までに18目54科274種が確認されているが(福井県 1982), そのうち15.7%が記録されたことになった. 全記録種のうち、水帯に生息する冬鳥(ガンカモ科鳥類)は20種で46.5%を占めていた(表1). 夏期に調査がされていないために繁殖の確認された鳥類種はなかった.

1978年の調査で計1目2科3種の哺乳類が記録されていた(表2). 確認された種は中型以上のものであり、小型種のネズミ類やモグラ類も生息しているはずであるが記録されていないかった.

この鳥獣保護区では、環境庁の指定した危急種としてオオタカ、希少種としてチュウサギ、マガン、ヒシクイ、オオハクチョウ、コハクチョウ、トモエガモが記録されていた. マガン、ヒシクイ、オオハクチョウ、コハクチョウは国指定の天然記念物であり、それらとオオタカは、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種でもある(環境庁野生生物保護行政研究会 1993). これらの種が生息していることは、当保護区の重要性を示している.

表2. 加戸鳥獣保護区における哺乳類リスト.

Table 2. List of mammal species recorded in Kato Wildlife Protection Area.

目 Order	科 Family	種名 Species	学名 Scientific name	調査年 1978 ¹
食肉目	イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	○
		キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	○
	イヌ	アグマ	<i>Meles meles</i>	○
1 目	2 科	3 種		3種

1: 福井県 (1978) による.

2. 保全対策

野生生物の保護・管理とは、ある環境で野生生物の貴重な個体群を繁殖・増殖させるアート（技術）であり、直接的に狩猟個体数を調節したり、移植したり、また間接的に生息地を管理したりする（Bailey 1984）。そのためには、常に野生生物の生息状況や個体群動態についてモニターし、生息地の保全対策を立てたり改善したりすべきである。

加戸鳥獣保護区では、大堤でのガンカモ科鳥類の調査がほとんどであり、哺乳類の生息調査が不足している。また、鳥類相に関する調査はほとんど冬期に行なわれており、夏期および春秋の渡り時期の調査が少ない。今後の調査が待たれる。

また、当保護区は1995年（平成7年度）に更新拡大の予定である（福井県 1992b）。ガンカモ科鳥類の重要な生息地である大堤を中心に規制されているが、さらに周辺も保護区に拡大することは必要である。

謝 辞

文献整理を谷口明里さんに行なっていただいた。ここに記して感謝する。

要 約

福井県の加戸鳥獣保護区の鳥類相と哺乳類相について文献を整理しまとめてみた。10目18科43種の鳥類と1目2科3種の哺乳類の生息が記録されていた。その中で環境庁の指定した危急種としてオオタカ、希少種としてチュウサギ、マガン、ヒシクイ、オオハクチョウ、コハクチョウ、トモエガモが記録されていた。当保護区は、ガンカモ科鳥類の大きな越冬地である大堤を含んでおり、かつ貴重な野生鳥獣の生息も含めて重要な地域である。さらに、繁殖期の鳥類、哺乳類の生息についてモニターし、保全対策を講じてゆく必要がある。

引用文献

- Bailey, J. A. 1984. Principles of Wildlife Management. 373pp., John Wiley & Sons, New York.
- 福井県. 1978. 第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書（哺乳類）. 45pp. 福井県.
- 福井県. 1979. 昭和53年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 13pp. 福井県.
- 福井県. 1980. 昭和54年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 14pp. 福井県.
- 福井県. 1981. 昭和55年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 14pp. 福井県.

- 福井県. 1982a. 昭和56年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 14pp. 福井県.
 福井県. 1982b. 福井県の鳥獣. 240pp. 福井県.
 福井県. 1983. 昭和57年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 14pp. 福井県.
 福井県. 1984. 昭和58年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 19pp. 福井県.
 福井県. 1985. 昭和59年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 16pp. 福井県.
 福井県. 1986. 昭和60年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 14pp. 福井県.
 福井県. 1987. 昭和61年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 14pp. 福井県.
 福井県. 1988. 昭和62年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 16pp. 福井県.
 福井県. 1989. 昭和63年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 18pp. 福井県.
 福井県. 1990. 平成元年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 15pp. 福井県.
 福井県. 1991. 平成2年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 18pp. 福井県.
 福井県. 1992a. 第7次鳥獣保護事業計画書. 51pp. 福井県.
 福井県. 1992b. 平成3年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 18pp. 福井県.
 福井県. 1993. 平成4年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 18pp. 福井県.
 福井県自然保護センター. 1994. 池河内鳥獣保護区における鳥類相と哺乳類相. *Ciconia* 3 : 51-55.
 福井県自然環境保全調査研究会. 1985. みどりのデータ・バンク総括報告書. 281pp. 福井県.
 環境庁自然保護局野生生物課 編. 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—脊椎動物編. 331pp. 日本野生生物研究センター, 東京.
 環境庁野生生物保護行政研究会. 1993. 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律. 東京. 317pp.
 黒田長久. 1982. 鳥類生態学. 614pp. 出版科学総合研究所. 東京.
 大迫義人. 1992. 1991年福井県で観察されたアカガシラサギ. *Ciconia* 1 : 35-37.

The fauna of bird and mammal of Kato Wildlife Protection Area

Fukui Nature Conservation Center¹

The fauna and breeding status of birds and mammals in Kato Wildlife Protection Area were reviewed. A total of 43 bird species of 18 families of 10 orders was recorded, of which no species bred. The majority of recorded species was waterfowls. A total of three mammal species of two families of one order was recorded. There were recorded Northern Goshawks as vulnerable species and Intermediate Egrets, White-fronted Geese, Bean Geese, Whooper Swans, Bewick's Swans, Baikal Teals as rare species that Environment Agency has registered. More surveys are needed to establish wildlife management arts in the area after monitoring the status of distribution and breeding of wildlife.

1. Fukui Nature Conservation Center. Minamirokuroshi 169-11-2, Ono-shi, Fukui 912-01

Written by Yoshito Ohsako.

